

長崎県子連NEWS

あすをひらく子ども会

長崎県子連ニュース No.47
2023年(令和5年)9月

発行／一般財団法人 長崎県子ども会育成連合会
〒850-0029 長崎市八百屋町36(長崎県教育会館内) TEL・FAX095-827-4574
URL <https://www.kodomo-kai.or.jp/nagasaki/> e-mail nagasaki@kodomo-kai.or.jp

今こそ 子ども会に入りましょう!!

一般財団法人 長崎県子ども会育成連合会 会長 北御門 長蔵



新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが「5類」に変わり、入場制限や自粛等の措置が戻りつつあります。

上半期の県子連の事業の推進についても、関係の皆様並びに、各地区の指導者・育成者の皆様方の温かいご支援とご協力をいただき、予定通り実施できておりますことに、心から厚く感謝申し上げます。

そのような中、7月末には、4年ぶりに実施された上五島でのジュニア・リーダー研修会に参加いたしました。子どもたちは、初めて出会う他地域の異学年齢の友達ともすぐに打ち解け、親しく会話したり、協力したりしながら活動に取り組んでいました。また、それを温かく見守る引率指導者・保護者の皆様の笑顔もとても印象に残っています。改めて子ども会の良さを実感した次第です。

一方で、昨今の子ども会を取り巻く状況はいかがでしょうか。コロナ禍の影響も多少はあるかもしれませんが、会員数の減少、指導者の高齢化、価値観の多様化、地域の結び付きの希薄化など、多くの課題が山積しているようです。

そこで、改めてまず子ども会入会のメリットを考えてみました。

- 子どもやその周りの保護者とも顔を合わす機会が多くなり、子ども同士、親同士のつながりが持てるようになる。その結果、地域で子どもたちを見守っていけるようになり、事故や犯罪を防ぐことにもつながる。
- 異年齢の子どもたちが集まるため、互いに協力することや思いやることの大切さを学ぶことができる。
- 地域で活動することを通して、地域の中に自分の居場所を見つけたり、社会の一員として活動することの喜びを味わったりすることができる。

- 多世代の交流が子どもの心やコミュニケーション力を育てていく。
- 自主的な活動を通じて健全な仲間づくりを進め、社会性、知的能力、情操、体力、創造性などの『生きる力』を育むことができる。

いかがでしょうか。少子化の影響で兄弟のいない子どもも多く、年齢の異なる子どもと交わる機会が少ない今の子どもたちです。また、自然体験や直接経験の少ない今の子どもたちです。今こそ、子ども会の意義を多くの人が認め、積極的に子ども会に入会し、地域の子どもの会を盛り上げていきたいものです。

次に、今後の子ども会のあるべき姿を、3つの視点から展望してみます。

【活動の魅力アップ】

決まっている活動が毎年同じように繰り返されマンネリ化しているといった声を耳にします。子どもたちの声に傾聴し、「活動のスリム化」「活動参加の自由化」「親も子も楽しめる活動の開発」などに配慮したいものです。

【支援体制の強化】

指導者の高齢化、中高生の参加減少という課題が、年々増えているようです。「ユースリーダーの育成」「関係団体との連携」「他子ども会との協力」「学校の理解と協力」「行政の支援」など、地域の実情に応じて取り組みたいものです。

【保護者負担の軽減】

役員の負担が大きい、家庭行事との両立が難しいといった保護者の声に出会います。「役員輪番制の廃止」「入退会いつでも可能」という原則は大事にしたいものです。

子どものためならという人はたくさんおられます。子ども会活動をあまり難しく、堅く考えずに、子どもの手による子ども会の活動を見守るだけでも十分ではないでしょうか。「今こそ、子ども会に入りましょう!!」

令和5年度(一財)長崎県子ども会育成連合会
★第1回理事会 ★評議員会

令和5年5月18日(木)に第1回理事会を、6月9日(金)に評議員会を、「県教育会館」大会議室においてそれぞれ開催しました。

県教育庁生涯学習課長「加藤盛彦」様、県こども未来課総括課長補佐「大内田基教」様にご来賓として出席いただき、ご祝辞をいただきました。

本年度は、理事・監事の改選期にあたり、また、各市町子連の人事異動や子ども会の役員改選等により、評議員の一部にも交代があり、次のように理事、監事、評議員が承認されました。

県子連理事及び監事

役 職	氏 名	選出地区	備考
理事(会 長)	北御門長蔵	諫 早 市	
理事(副会長)	三浦 正二	長 崎 市	
理事(副会長)	諸橋 芙美	佐世保市	
理事(副会長)	山下 徳美	島 原 市	
理 事	赤木 寛	平 戸 市	
理 事	松下 一徳	長 与 町	
理 事	中野 博喜	新上五島町	
監 事	吉村 正春	長 崎 市	
監 事	垣内 一幸	長 崎 市	

理事、監事の任期は、令和5年4月1日から令和7年3月31日までの2年間とする。

県子連評議員

選出地区	評 議 員	(旧 評 議 員)	備考
長 崎 市	中野 尚志	(谷内 貴代)	(新)
佐世保市	武尾 定義		
島 原 市	野口 一徳		
諫 早 市	石場加代子		
大 村 市	川竹 成稔		
平 戸 市	富野奈津美	(西村 悦子)	(新)
松 浦 市	吉元 優奈		
対 馬 市	春田 新一		
壱 岐 市	長田 大河	(山川 拓也)	(新)
五 島 市	平村 和弘		
西 海 市	富口 結乃	(田崎 健太)	(新)
雲 仙 市	小林 優己		
南島原市	松嶋秀太郎	(太田 誠二)	(新)

長 与 町	田中 直登		
時 津 町	山脇 清治		
東彼杵町	森元 奏実	(木場 香)	(新)
川 棚 町	一ノ瀬正章		
小 値 賀 町	大田 議嗣		
佐 ヲ 町	稲澤 昂平		
新上五島町	原 雄一郎	(花田 新助)	(新)

評議員の任期は、令和3年4月1日から令和7年3月31日までの4年間とする。

県子連専門委員(会長委嘱)

役 職	氏 名	地 区	備考
専門委員長	谷口久美子	西 海 市	
専門副委員長	平山 仁	諫 早 市	
専 門 委 員	水谷 幸子	長 崎 市	
専 門 委 員	宮田 龍郎	諫 早 市	

専門委員の任期は令和5年4月1日から令和7年3月31日までの2年間とする。

県子連顧問(会長委嘱)

役 職	氏 名	地 区	備考
顧 問	久米 直	長 崎 市	

令和5年度(下半期)の主な事業

事 業 名	日 程	会 場
①第56回全国子ども会育成中央会議・研究大会	10/27(金) ～ 10/29(日)	札 幌 市 京王プラザ ホテル札幌
②九州各県(政令都市)子連会長・事務局長会議	11/10(金)	熊 本 市 ホテル熊本 テ ル サ
③九州地区子ども会育成研究協議会熊本大会	11/11(土) ～ 11/12(日)	熊 本 市 ホテル熊本 テ ル サ
④長崎県子ども会伝承芸能大会(西彼杵郡大会)	2/4(日)	長 与 町 民 文化ホール
⑤長崎県子ども会指導者・育成者研修会(島原市大会)	2/18(日)	島 原 市 有明総合 文化会館
⑥県子連第2回理事会	3/8(金)	長 崎 市

令和5年度 長崎県子ども会 ジュニア・リーダー研修会

本年度長崎県子ども会ジュニア・リーダー研修会が、7月22日(土)～24日(月)の3日間、新上五島町立上五島海洋青少年の家で開催されました。

コロナや台風の影響で、実に4年ぶりの実施となります。県内から小学生46名、中学生13名、大学生3名、指導者14名の計76名が参加しました。

今回は、予約の関係で長崎港からの乗船組の到着時間が遅くなったため、全員の顔合わせが午後となってしまいました。

1日目：7月22日(土)



はじめまして!!



北御門会長あいさつ



JL代表あいさつ



オリエンテーション



講義「JLの役割」



講習「海の危険予知」



夕べのスピーチ



消防署員のみなさま



実技講習「救命救急法」



班活動「1日の反省」

2日目：7月23日(日)



ラジオ体操



朝のスピーチ



ライフジャケットを身に付けて



サップに挑戦



パドル操作も順調シカヤック



今から海に入ります



大きな砂山ができた!!



先生は上手です



竹細工：うどんすくい

3日目：7月24日(月)



シニア・リーダーとの楽しいひととき



修了証書授与



さようなら 有川港

来年度、参加したいと思うジュニア・リーダー(小学5年生～中学3年生)は、毎年6月初旬ごろまでに、所属する市町子ども会事務局に申し込んでください。いろいろな学校の人と仲良くなれます。初めて体験することも多くあります。自然豊かな五島の良さと人の温かさにふれることができます。

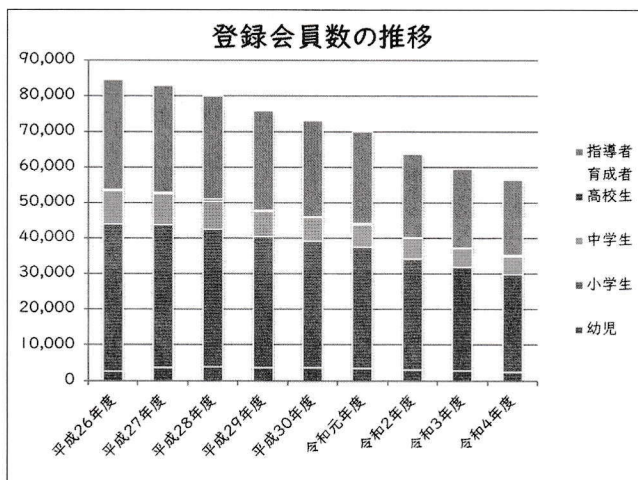
ユース・リーダーに期待!!

気候変動のためでしょうか。今年の夏も猛烈な暑さが続きました。県下各地の子ども会では、どのような夏を過ごされたのでしょうか。

「少年の船」「広島・長崎子ども会親善交換会」「平和のつどい」「球技大会」「キャンプ」「夏祭り」等々、各子ども会で特色ある活動が展開されたことと思います。

夏休みの子ども会行事といえば、「ラジオ体操」を真っ先に思い浮かべるといふ人は、かなりの高齢者かもしれません。最近、「ラジオ体操」に取り組む子ども会も随分少なくなっているようです。

昔は、ほとんどの子どもたちが入っていた子ども会ですが、県子連の会員数も、残念ながら確実に減少してきております。



8年前は、約82,000人の会員数が昨年度末には約56,000人にまで減少し、小・中学生の加入率も44%から32%にまで減少している現状です。

今後、各市町子連と協力しながら、何とかして減少傾向に歯止めをかけていきたいと考えております。

そんなことを考えていた8月のある日、県内の大学生から『県子連ニュース』の第33号からは手元にあるのですが、第1号から第32号までがありません。見せていただくことができませんか。」という問い合わせがありました。

理由を尋ねてみると「子ども会の現状と課題」というテーマで卒業論文を作成したいとのことでした。

その大学生は小・中学校時代に、とても熱心に子ども会活動に取り組んでいて、子ども会が自分を大きく成長させてくれたと感謝の気持ちを伝えてくれました。

一方で、自分が育った子ども会でも、会員数の減少や活動の縮小が見られ、残念な気持ちになっているそうです。

お話をうかがい、とても嬉しくなりました。長崎県にはこんなにも熱い“子ども会愛”をもった若者がいるのですね。

今号で紹介しております「県子連ジュニア・リーダー研修会」にも、3名の大学生が参加してくださり、子どもたちの指導や支援・助言にあたっていたところでした。

子ども会に関心があり、子ども会の活動を支えたい、盛り上げたいと願っている大学生や若者は決して少なくないのではないのでしょうか。

ところで、昨年度実施した市町子連活動に関するアンケートでは、シニア・リーダー(高校卒業後の学生や社会人)の子ども会活動状況について、次のような回答が得られました。

- シニア・リーダーの組織があり活動している：1市
- 市子連専門委員として活動している：1市
- 指導者・育成者として活動している：1市
- 必要に応じて手伝っている：2市1町
- 組織はあるが活動していない：1町
- 活動していない：8市7町

市や町によって温度差があり、県全体としてはどちらかというとシニア・リーダーの活動は低調のようです。

やはり、進学や就職による転出、コロナ禍等の影響が大きいようです。

このような中、全子連では、これまでシニア・リーダーとしていた名称をユース・リーダー(高校卒業から30歳までの世代)と改め、全国的に活動を促進することにしております。

このユース・リーダーには、ジュニア・リーダーを経験し、今も続けているシニア・リーダーが含まれますが、小中学校時代に子ども会に所属した経験がなくても、子ども会への意欲がある若者なら大歓迎という立場をとっています。

九州地区においても、ユース・リーダーのネットワーク構築、及びユース・リーダーの役割について研修する「九州地区ユース・リーダー研修会」が6月に開催され、長崎県からも1名が参加いたしました。

こうした若いエネルギーを子ども会に注入し、活性化を図っていくことも、とても大切なことだと考えております。県子連として、これからユース・リーダーの発掘・育成に力を注いでいきたいと考えております。

(県子連事務局長 鈴木)